

競技上の注意【団体戦】

- 1 競技規則については、（公財）日本ソフトテニス連盟発行「ソフトテニスハンドブック」に準拠する。
競技はすべて7ゲームマッチとする。
- 2 3ペアによる点取り対抗戦とし、2勝以上を得たチームを勝ちとする。1・2回戦は勝敗が決定しても3番目のマッチを行う。
3回戦以降は2勝先取とし、2面および3面同時展開の場合、勝敗が決定次第、進行中のマッチの順番に関係なく打ち切りとする。〔大会運営規則9条2〕
- 3 参加選手は（公財）日本ソフトテニス連盟公認2級審判員の資格を有するものとする。参加申込書に「申請中」と記載した場合は、各都道府県専門部委員長が所定の様式を用い、全国委員会までに競技委員長に報告する。（提出場所は全国委員会受付）
- 4 選手変更・監督変更については、各都道府県専門部委員長が所定の用紙を用い、全国委員会受付時から監督連絡会までに競技委員長に届け出て承認を受ける。（提出場所は諸会議受付）
 - （1）選手変更は原則として2名まで（日本ソフトテニス連盟2019年4月1日「選手変更についての取り扱い」）とするが、特別な事情を有する場合、競技委員長の承認をもってそれ以上の変更を認める場合がある。また、選手変更届の変更理由に傷病名等、変更理由が明確にわかる記載がある場合は診断書の提出は求めないこととする。
 - （2）急病等の場合に限り、団体戦当日の到着票受付時の届け出を認める。（提出場所は「競技受付」（会場図⑦番））
- 5 異装届については、各都道府県専門部委員長が所定の用紙を用い、全国委員会受付時から監督連絡会までに競技委員長に届け出て承認を受ける。（提出場所は諸会議受付）
- 6 IDカードおよびプログラムの都道府県名・学校名・監督名・選手名・学年にミスプリントがあった場合は、所定の用紙を用い、監督連絡会終了後直ちに監督連絡会受付に提出する。
- 7 選手到着票（団体戦）は所定事項を記入し、1回戦のチームは8時30分までに、2回戦からのチームは9時00分までに、「競技受付」（会場図⑦番）へ提出する。なお、受付開始時刻は8時00分とする。
- 8 オーダーの提出については円滑な進行のために次の事項を厳守する。
 - （1）オーダー票はプログラム記載事項を確認したうえで所定事項を記入し、1回戦のチームは8時30分までに「競技受付」（会場図⑦番）に到着票と合わせて提出する。2回戦以降、待機中のチームは対戦チームが決定次第、対戦中のチームは試合終了後10分以内にオーダー票を「競技本部」（会場図③番）に提出する。
 - （2）オーダー提出の遅れにより選手集合時刻に採点票が届かなかった場合、原則として選手集合時刻から採点票が届いた時刻までの時間に応じ、オーダー提出が遅れたチームに警告を与える。
注）警告は、5分の遅れでチームに（3ペアそれぞれに）対して警告1回とする（ただし、次の対戦には持ち越さない）。その後5分経過ごとに警告を累積し、警告3回をもって失格とする。
- 9 大会使用球については、男子ケンコーボール、女子はアカエムとする。
- 10 競技用具・服装等については次の条件を守る。
 - （1）ユニフォームは、（公財）日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスウェアを着用する。
着用にあたっては、（公財）日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。
※学校名等がプリントされたゲームシャツ（背面プリント含む）の着用は禁止とする。ゼッケンで隠れているものも禁止とする。また、袖口に刺繍等で個人名をいれたものは可とする。
 - （2）シューズは（公財）日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスシューズを着用する。
着用にあたっては、（公財）日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。
 - （3）アンダーウェア（インナーウェア）は、（公財）日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。着用については単色の製品を原則とする。
 - （4）ラケットは、（公財）日本ソフトテニス連盟の公認マークが付いているものを使用する。
 - （5）IDカードは、指定された場所に集合する際には必ず着用する。
 - （6）選手は、競技会場にて配付されるゼッケンスポンサー名が入った専用ゼッケンを背中につけること。（必ず四隅を安全ピン等で留めること）
- 11 コート割りおよび進行の予定は進行表の通り（3回戦以降は2面同時展開で実施）とするが、進行状況および天候等の事情で変更や3面同時展開で実施することがある。荒天時の場合は荒天時競技会場に変更する場合もある。
- 12 男子日程でのベンチは、プログラム番号の小さい方のチームがのどスポーツピアツァ側（北側）とする。また、女子日程でのベンチは、プログラム番号の小さい方のチームが駐車場側（北側）とする。
- 13 円滑な進行のために次の事項を厳守する。

- (1) 第1試合のマッチ開始時刻は、9時00分とする。1回戦の選手・監督は、8時50分までにコートに集合し、オーダーの確認等をその場で行い試合を開始する。2回戦以降は、対戦相手が決定してから15分以内に直接コートに集合し、オーダーの確認等をその場で行い試合を開始する。全ての試合において、コートでの試合前のあいさつ終了後、1分以内に1番手のマッチを開始すること。
 - (2) 放送等での呼び出しは原則として行わないので進行に十分注意する。
注) 集合時刻になり、アンパイヤーが整列してから5分経過しても選手・監督が集合しない場合は、チームに(3ペアそれぞれ) 対して警告1回とする(ただし、次の対戦には持ち越さない)。その後5分経過ごとに警告を累積し、警告3回をもって失格とする。
 - (3) マッチ前の練習は1分以内とする。
 - (4) 試合中、監督およびマッチに出場していない選手は、原則としてコート内の指定位置(ベンチ)に待機する。
- 14 マッチ中はアンパイヤーの指示に従い、マナーを尊重してプレーする。異議の申し立てや、故意のプレー中断をしてはならない。[競技規則第15条、第40条]
 - 15 アンパイヤーに対する質問はチームの監督または当該プレーヤーのいずれかができる。[競技規則 第40条2]
 - 16 コート主任がイエローカードを出す場合がある。
 - 17 監督は次の事項を守る。
 - (1) 指定位置(ベンチ)は、大会本部が定めた位置とし、やむを得ない事情の場合を除き、マッチ中に一度ベンチを出たら戻れない。
 - (2) 服装は選手に準じ、IDカードを必ず着用する。
 - (3) 助言はサイドのチェンジおよびファイナルゲームに入る場合のみ許容された時間内で行うことを認める。それ以外の助言は、警告とする。[競技規則 第38条]
 - (4) 2面同時展開と3面同時展開の場合のベンチは、使用するコートの中央に位置する。
マッチが進行し1面展開のみになった場合は、当該コートのベンチに位置する。
 - (5) ベンチへの通信機器の持ち込み及び使用を禁止する。
 - (6) 私有の椅子等の持ち込みはできない。
 - 18 審判は開催地審判委員がすべてのマッチを行う。
 - 19 練習については指定された場所、時間を守る。(別表「練習コート割当表」を参照のこと)
 - 20 ベンチ内での日傘、雨傘の使用を認める。ただしプレーに支障のないもの(日傘については太陽光を反射しないもの)を使用し、使用者自身が持つことを原則とする。大会本部からプレーに支障があると判断された場合は、その指示に従い速やかに使用をやめること。
 - 21 大会本部が測定する会場での気温(乾球温度)が35℃以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰(アンパイアの目の届く範囲)での休憩を許可する。ヒートルールの適用と解除のタイミングについてはアンパイヤーまたはコート主任の指示に従うこと。
 - 22 1・3・5・6ゲーム終了時はベンチへ戻り、1分以内のベンチコーチと給水時間をとることができる。選手の健康面(熱中症等)を考慮し、チェンジサービス時(2・4ゲーム終了時)の給水も認め、ファイナルゲーム中もチェンジサービス時のみ給水のみは認める。その際、選手は給水用の容器等を予め審判台の下に置いておき、審判台付近コート内で給水をとる(ベンチへは戻れない)。給水時間は30秒以内とし、隣コートでのマッチの支障とならないよう十分留意すること(給水用の容器等の持ち運びは、ベンチ入りした者で行うこと)。
 - 23 選手に突発的な身体上の支障が生じ、タイムをとったのちに、パートナーや監督・コーチ・メンバー以外の者から身体上の手当をしたいと申し出があった場合、コート主任がレフェリーを代行し、正審と協議の上、許可することとする。
(緊急性の考慮) [競技規則 第38条 禁止事項 関係]
 - 24 各学校持ち込みテントの利用は、「プライベートテント設置区域」(会場図㊴番)のみとし、それ以外の場所への私物の設置は禁止する。
 - 25 横断幕等の掲示は、能登会場では「のとスポーツピアツツア設置区域内」、七尾会場では「能登香島中学校テニスコート設置区域内」のみとする。
 - 26 各コート前列付近は大会運営上、選手・監督・役員等ID所持者の通路とし、応援等での使用を禁止する。

競技上の注意【個人戦】

- 1 競技規則については、（公財）日本ソフトテニス連盟発行「ソフトテニスハンドブック」に準拠する。
競技はすべて7ゲームマッチとする。
- 2 参加選手は、（公財）日本ソフトテニス連盟公認2級審判員の資格を有するものとする。参加申込書に「申請中」と記載した場合は、各都道府県専門部委員長が所定の様式を用い、全国委員会までに競技委員長に報告する。
(提出場所は全国委員会受付)
- 3 選手変更・ベンチ入り指導者変更については、各都道府県専門部委員長が所定の用紙を用い、全国委員会受付時から監督連絡会までに競技委員長に届け出て承認を受ける。(提出場所は諸会議受付)
(1) 選手変更届の変更理由に傷病名等、変更理由が明確にわかる記載がある場合は診断書の提出は求めないこととする。
(2) 急病等の場合に限り、個人戦第1日目の到着票受付時の届け出を認める。(提出場所は「競技受付」(会場図 ⑦ 番))
- 4 異装届けについては、各都道府県専門部委員長が所定の用紙を用い、全国委員会受付時から監督連絡会までに競技委員長に届け出て承認を受ける。(提出場所は諸会議受付)
- 5 IDカードおよびプログラムの都道府県名・学校名・ベンチ入り指導者名・選手名・学年にミスプリントがあった場合は、所定の用紙を用い、個人戦第1日目の到着票受付時までに「競技受付」(会場図 ⑦ 番)へ提出する。
- 6 選手到着票(個人戦)は所定事項を記入し、進行表の1回戦出場の選手は8時30分までに、2回戦から出場の選手は進行表の受付終了時刻(9時00分または9時30分)までに、「競技受付」(会場図 ⑦ 番)へ提出する。なお、受付開始時刻は8時00分とする。
- 7 大会使用球については、男子はケンコーボール、女子はアカエムとする。
- 8 競技用具・服装等については次の条件を守る。
 - (1) ユニフォームは、（公財）日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスウェアを着用する。
着用にあたっては、（公財）日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。
※学校名等がプリントされたゲームシャツ(背面プリント含む)の着用は禁止とする。ゼッケンで隠れているものも禁止とする。また、袖口に刺繍等で個人名をいれたものは可とする。
 - (2) シューズは（公財）日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニスシューズを着用する。
着用にあたっては、（公財）日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。
 - (3) アンダーウェア(インナーウェア)は、（公財）日本ソフトテニス連盟の定める「ユニフォーム等の着用基準」を厳守する。着用については単色の製品を原則とする。
 - (4) ラケットは、（公財）日本ソフトテニス連盟の公認マークが付いているものを使用する。
 - (5) IDカードは、指定された場所に集合する際には必ず着用する。
 - (6) 選手は、競技会場にて配付されるゼッケンスポンサー名が入った専用ゼッケンを背中につけること。(必ず四隅を安全ピン等で留めること)
- 9 コート割りおよび進行の予定は進行表の通りとするが、進行状況および天候等の事情で変更することがある。
- 10 男子日程でのベンチは、プログラム番号の小さい方のペアがのとスポーツピアツア側(北側)とする。また、女子日程でのベンチは、プログラム番号の小さい方のペアが駐車場側(北側)とする。
- 11 選手は円滑な進行のために次の事項を厳守する。
 - (1) マッチ開始時刻は、9時00分とする。第1試合の選手は1日目・2日目ともに8時50分までにコートへ集合し、その場でサービス・レシーブ又はサイドの選択をその場で行い、マッチを開始する。2試合目以降は、直前のマッチの2ゲーム終了後、直ちに試合を行うコートのブロック主任席に集合すること。マッチが連続する場合は、対戦相手決定後、15分以内を集合時刻とする。
 - (2) 放送等での呼び出しは原則として行わないので進行に十分注意する。
注) アンパイヤーがコートに整列後、選手がコートに出場しない場合、5分経過で警告1回とする。その後5分経過ごとに警告を累積し、警告3回をもって失格とする。[競技規則第42条]

- (3) マッチ前の練習は1分以内とする。
- 12 マッチ中はアンパイヤーの指示に従い、マナーを尊重してプレーする。異議の申し立てや、故意のプレー中断をしてはならない。〔競技規則第15条、第40条〕
- 13 アンパイヤーに対する質問は、当該プレーヤーのいずれかができる。〔競技規則第40条2〕
- 14 プレーヤー以外にベンチ入り指導者がコート内の指定位置（ベンチ）に入ることを認める。助言はサイドのチェンジおよびファイナルゲームに入る場合のみ許容された時間内で行うことを認める。それ以外の助言は、警告とする。〔競技規則第38条〕
- 15 コート主任がイエローカードを出す場合がある。
- 16 ベンチ入り指導者は次の事項を守る。
- (1) ベンチに入る者は1名とし、やむを得ない事情の場合を除き、マッチ中に一度ベンチを出たら戻れない。また、マッチ中のベンチ入り指導者の交代は認めない。
 - (2) 服装は選手に準じ、IDカードを必ず着用する。
 - (3) アンパイヤーへの質問は一切できない。
 - (4) ベンチへの通信機器の持ち込み及び使用を禁止する。
 - (5) 私有の椅子等の持ち込みはできない。
- 17 個人戦第1日目の審判は、敗者（第1試合のみ開催地審判委員）が審判ワッペンを着用して行う。個人戦2日目は開催地審判委員が行う。
- 18 練習については指定された場所、時間を守る。（別表「練習コート割当表」を参照のこと）
- 19 ベンチ内での日傘、雨傘の使用を認める。ただしプレーに支障のないもの（日傘については太陽光を反射しないもの）を使用し、使用者自身が持つことを原則とする。大会本部からプレーに支障があると判断された場合は、その指示に従い速やかに使用をやめること。
- 20 大会本部が測定する会場での気温（乾球温度）が35℃以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰（アンパイアの目の届く範囲）での休憩を許可する。ヒートルールの適用と解除のタイミングについてはアンパイヤーまたはコート主任の指示に従うこと。
- 21 1・3・5・6ゲーム終了時はベンチへ戻り、1分以内のベンチコーチと給水時間をとることができる。選手の健康面（熱中症等）を考慮し、チェンジサービス時（2・4ゲーム終了時）の給水も認め、ファイナルゲーム中もチェンジサービス時の給水のみは認める。その際、選手は給水用の容器等を予め審判台の下に置いておき、審判台付近のコート内で給水をとる（ベンチへは戻れない）。給水時間は30秒以内とし、隣コートでのマッチの支障とならないよう十分留意すること（給水用の容器等の持ち運びは、ベンチ入りした者で行うこと）。
- 22 選手に突発的な身体上の支障が生じ、タイムをとったのちに、パートナーやベンチ入り指導者・コーチ以外の者から身体上の手当をしたいと申し出があった場合、コート主任がレフェリーを代行し、正審と協議の上、許可することとする。
（緊急性の考慮） 〔競技規則 第38条 禁止事項 関係〕
- 23 各学校持ち込みテントの利用は、「プライベートテント設置区域」（会場図 ㊴ 番）のみとし、それ以外の場所への私物の設置は禁止する。
- 24 横断幕等の掲示は、能登会場では「のとスポーツピアツア設置区域内」、七尾会場では「能登香島中学校テニスコート設置区域内」のみとする。
- 25 各コート前列付近は大会運営上、選手・監督・役員等ID所持者の通路とし、応援等での使用を禁止する。